

きずな

2026 7 July

今号の題字

綾町立綾中学校 2年

兒玉 咲紀さん



綾町では、子ども議会で小学6年生が真剣に語った「綾町をきれいにしたい」という思いが今年実現しました。

名付けて「AYAビューティフル大会」。

第1回となる今回は、提案者である中学1年生(提案時の小学6年生)と町民が3人1組で綾北川と綾南川に分かれてごみ拾いをしました。笑顔と汗が輝く中、子どもの思いに大人が本気で応えた一歩となりました。

「未来は与えられるものではなく、子どもたちと共につくるもの」そのことを実感させる、心に深く響く一日となりました。

【教頭 黒木弘恵】

AYAビューティフル大会

CONTENTS

- ② 宮崎県PTA連合会定期総会
- ③ 宮崎県PTA連合会役員紹介
ネットモラル・メディアリテラシー
- ④ 国内研修
コラム「三輪車」
- ⑤ 第71回日本PTA九州ブロック研究大会
宮崎大会
- ⑥ トピックス「新富町立上新田中学校」
編集後記



宮崎県PTA連合会
ホームページ



編集・発行: 宮崎県PTA連合会

発行責任者: 二見 志信

宮崎市旭1丁目3-10 婦人会館2階 Tel:0985(22)3081 FAX:0985(20)9443

<http://www.miyazakikenpta.com> E-mail: mken-pt@io.ocn.ne.jp

子どもを真ん中に、
共に学び、共に成長できる
PTA活動を推進しよう

～ 家庭・学校・地域との連携・協働をとおして ～

令和8年5月30日(土)宮崎観光ホテルにおいて、県内各地区の代表が出席

し、宮崎県PTA連合会定期総会が開催されました。

令和7年度の事業報告・決算報告並びに監査報告、令和8年度基本方針案や

事業計画案、予算案を協議し、すべての議案が承認されました。

役員改選では、昨年度に引き続き二見志信会

長をはじめ12人の役員・理事等が承認されました。二見会長は「本連合会はすべての子どもたち、家庭・学校・地域において安心して生活できる環境づくりを目的とし、時代の変化に即応した活動を推進するとともに、既存の枠組みにとらわれない柔軟な発想でPTAの持続可能な活動の在り方を摸索していきたい」と述べました。



基本方針

宮崎県PTA連合会は、保護者と教職員が一体となつて不偏不党、中立公正を旨とする社会教育関係団体として、すべての子どもたちが安心して家庭で、学校で、地域で生活することができる環境づくりに努めることを目的とする。

市郡PTA(連絡)協議会(単位PTA)との連携を図るとともに、行政や関係諸団体と協議・研究を行い、子どもたちの健全育成とPTA会員の資質の向上及び本県教育の振興を図りたい。

また、会員一人一人がPTAの一員であるという当事者意識をもち、会員相互の信頼と協力のもと、家庭・学校・地域が一体となって、時代の変化に即応した活動を組織的に推進するとともに、あらゆる教育の課題に対して手を携えあって乗り越えていきたい。

さらに、PTAの任意加入等に係る問題に関しては、様々な情報を基に、県PTA連合会役員会・理事会やリーダー研修会等において研修や協議を深めていきたい。

活動目標

- ① 家庭教育の推進
- ② 心の教育の推進
- ③ 子どもの健全育成活動の推進
- ④ 研修活動の推進
- ⑤ 家庭・学校及び地域社会等との連携・協力の推進
- ⑥ 広報活動の推進

令和8年度 理事・監査委員

理 事	教職員代表理事
谷口 佑介 〈串間市〉	杉山 智子 〈小学校〉
大木場隆示 〈えびの市〉	原田 昭彦 〈中学校〉
森岡 誠 〈小林市〉	
長井のぞみ 〈北諸県郡〉	
亀田 甲江 〈西諸県郡〉	
押田 和人 〈東諸県郡〉	
光森 一成 〈西都市〉	
川澤 朋弥 〈児湯郡〉	
海野 勝弥 〈東臼杵郡〉	
戸高 貴喜 〈西臼杵郡〉	
	監 査 委 員
	大田 美華 〈小林市〉
	齋藤 幸紀 〈西都市〉
	橋本 寿 〈西臼杵郡〉

令和8年度 感謝状贈呈者

山下 博之	〈県P理事・えびの市〉	川越 章三	〈教職員代表理事・中学校〉
大田 美華	〈県P理事・小林市〉	青山 順子	〈県P事務局員〉
元明 吉文	〈県P理事・西諸県郡〉		
川崎 大輔	〈県P理事・東諸県郡〉		
齋藤 幸紀	〈県P理事・西都市〉		
長尾 広則	〈県P理事・児湯郡〉		
甲斐 宣人	〈県P理事・東臼杵郡〉		
橋本 寿	〈県P理事・西臼杵郡〉		



令和8年度

宮崎県PTA連合会役員紹介

●会長あいさつ

会長 二見 志信

宮崎県PTA連合会は結成75年を迎えました。時代が移り変わり、家庭環境が複雑化する今こそ、PTAは原点に立ち返る時です。

PTAの本質は、保護者と教職員が対話を重ね、子どもを支えるコミュニティを築くことにあります。挨拶から始まる

FACE to FACEの交流が、何かの時に支え合える確かな関係性となり、子どもの健全な成長を支える土台となります。

本年度は宮崎にて「第71回日本PTA九州ブロック研究大会」を開催いたします。大会スローガンは「新しいつながりの一歩を宮崎の地から」です。既存の枠組みに捉われない

柔軟な発想で、PTAを「新しいつながりを生み出す拠点」へと進化させ、持続可能な活動の在り方を模索してまいります。

温かい「ひなた」の宮崎で共に学び、語り合い、子どもたちの輝く未来を明るく照らしていきましょう。一年間、どうぞよろしくお願い申し上げます。



【後列】

◆事務局長◆

岩永 律子
(宮崎県PTA連合会)

◆副会長◆

小野 寿雄
(延岡市PTA連絡協議会)

◆副会長◆

井上 英彦
(日南市PTA協議会)

◆副会長◆

吉永 健一
(都城市PTA連絡協議会)

【前列】

◆副会長◆

甲斐 実沙希
(宮崎市PTA協議会)

◆会長◆

二見 志信
(宮崎市PTA協議会)

◆副会長◆

持原 将之
(宮崎市PTA協議会)

◆副会長◆

葛西 了一
(日向市PTA協議会)

どうぞよろしくお願いします！



宮崎県PTA連合会は

ケータイ・スマホ 夜9時
電源OFF運動

を推進しています。

子どもを守るネットモラル5か条

- ① 学校や家庭でのルールを守ろう
- ② メールやライン等で人の悪口や傷つくことは書かないようにしよう
- ③ 人の住所や電話番号等の個人情報は書かないようにしよう
- ④ ケータイ・スマホは、夜9時になったら電源を切ろう
- ⑤ 何かトラブルがあったらすぐに相談しよう

- 児童生徒のソーシャルメディアの利用は「保護者責任」と考えます。その利用に際し、宮崎県PTA連合会としての基本的な考えを示し、学校や関係機関と連携してネットモラル・メディアリテラシー教育を推進します。
- (児童生徒) インターネットは世界中の人が見えています。自分はもちろん、友達や知人の個人情報に関する書き込みはやめましょう。
- 家族の名誉や人を傷つける行為は絶対にしてはいけません。
- 利用しない、見ない、気にしないことも勇気だと知りましょう。
- トラブルに巻き込まれたら、先生や保護者に相談しましょう。
- (保護者) 情報教育に関する保護者勉強会に参加しましょう。
- インターネット接続機器における保護者の責任を認識しましょう。
- 困ったときは、みんなで話し合いましょう。
- 家庭内のルールを決めましょう。
- 私たちが考える本場のコミュニケーションは、FACE to FACEです。



ネットモラル・教育の推進
メディアリテラシー

国内研修

in 東京

令和8年3月25日(水)〜28日(土)
主催 日本PTA全国協議会

研修でできた1つの夢

宮崎市立本郷中学校 橋本 遥伊

僕はこのPTA国内研修事業に行き、3泊4日でかけがえのない貴重な体験を全国の中学2年生とともに経験した。例えば協力して友達と謎を解いたり都内を散策したりした。だが最初はみんな緊張して話すことができなかった。しかし、3泊4日を通して僕たちは別れを惜しむくらい仲が深まる友情ができた。研修の中で他県の方言の違いや文化の違いなども体験でき、宮崎と似ているところや宮崎にはないことを多く学べた。僕は野球をやっている他県からも野球をやっている友達に来ていてとても話が深まった。僕は元々アメリカで野球をやりたいという夢に向かって野球や勉強をしていた。しかし、この研究を通して日本一周をしたいという夢を持った。なぜならこのように初めて会う色々な人達と仲を深めるといふ事は、とても自分に合っていてそして自由に日本を周る色々な経験を重ねていき



東京研修を終えて

日向市立東郷学園 黒木 莉菜



たいと思ったからだ。だが、日本一周というのはとても大きな試練でもある。その試練を乗り越えて日本各地に向き、また研修で出会った友達と再会したいと思っている。このように東京研修は緊張や笑いあり涙ありのとても貴重な経験ができた。今中学1年生の人達やその下の友達には、是非この研修に行つて色々な経験を積んで欲しいと思っている。3泊4日はとてもいい経験になり、これから的人生もここで学んだことを胸に生きたいと思う。

全国から集まった初対面の仲間と囲まれ、最初は緊張と戸惑いもありましたが、同年代の仲間と過ごす時間は自分の視野を広げる貴重な体験となりました。特に印象深いのは、2日目のYCA Pというプログラムです。グループで協力して与えられた課題の解決に挑む中で、対話を通じて互いを理解しあう楽しさを知り、相手を深く知ろうとする意欲が湧きました。良好な関係を



築くには、まず「相手を知ること」から始めることが大切だと肌で感じました。3日目の講演では、「自分の好き」を仕事にすることと、「好きな仕事」をすることの違いを学びました。「自分の好き」を仕事にすることは、自ら動いて誰かの役に立とうとする姿勢であり、「好きな仕事」をすることは、既存の役割の中で専門性を磨き、責任を果たす働き方です。私は、この2つの視点を得て、将来「保健師になりたい」という思いがより強固なものになりました。多くの人の健康を支える保健師の仕事が、自分にとつての「好きな仕事」となるよう、日々の努力を惜しまず、地域社会に貢献できる存在を目指します。今回の研修で出会い、切磋琢磨した全国の仲間は私にとって大きな財産です。この4日間得た新しい視点を胸に、一日を大切にしながら、夢の実現に向けて歩んでいきたいと思っています。



コラム 三輪車

みとめあい、まなびあい、
たすけあう三股中学校

三股町立三股中学校 PTA会長 長井のぞみ



本校は宮崎県南部に位置し、ハートの形をした町として知られ、「花と緑と水のまち」をキャッチフレーズとする三股町にあります。町内6校の小学校から生徒が集まる「1町1中」の学校で、県内でもトップクラスの生徒数を誇る活気あふれる学校です。また、地域とのつながりを大切にしながら学びが育まれています。

私はPTA活動で購買部に立ち、朝の登校の様子を見守る機会をいただきました。友だちと楽しそうに話しながら登校する姿、時間ぎりぎりに駆け込みながらも先生へしっかり挨拶をする姿等を通して、さまざまな表情が見られました。特に印象的だったのは、骨折した友だちの荷物を持ったり、車いすを押したりする姿です。自然と相手を思いやる子どもたちの姿に温かい気持ちになりました。

普段の学校での子どもたちの姿を知り、三股中の子どもたちは学校や地域の中で多くの人に支えられながら成長しているのだと実感しました。そして、この子どもたちがこれからの三股町や宮崎県、さらには日本を支えていく存在になるのだと思うと、その健やかな成長を心から願わずにはいられません。同時に、私たち大人にできることは何かを考えるきっかけにもなりました。これからもPTA活動を通して、学校や地域と手を取り合いながら、子どもたちを支えていきたいと思っています。

第1分科会 【組織・運営】



宮崎市PTA、東諸県PTAとで有意義な研究大会にするために研究討議しています。

【運営責任者】
宮崎市PTA協議会 上米良 裕紀

第2分科会 【家庭教育】



子どもたちの未来につながるPTA活動を学び合い、地域と学校を結ぶ実践を深める機会にしたいです。

【運営責任者】
都城市PTA連絡協議会 吉永 健一

第71回日本PTA九州ブロック研究大会

宮崎大会

へ向けて!!

第4分科会 【教育環境】



家庭・学校・地域を繋ぎ、みんなで育むPTAを語り合いませんか？

【運営責任者】
日向市PTA協議会 葛西 了一

第3分科会 【人権教育】



「参加してよかった」と言っていただけのために全力で取り組んでいます。ご参加をお待ちしています。

【運営責任者】
日南市PTA協議会 井上 英彦

第5分科会 【広報・地域連携】



顔を合わせて言葉を交わす絆を大切に！笑顔の対話から、新しい輪を広げましょう！

【運営責任者】
延岡市PTA連絡協議会 小野 寿雄

宮崎県小・中学校PTA新聞コンクール 開催時期の変更についてお知らせ

令和8年度から宮崎県小・中学校PTA新聞コンクールは、開催時期を変更いたします。

開催時期を変更することで、年度内に発行した全ての新聞を審査対象とすることが可能になります。

思いを込めてPTA新聞づくりをされている皆様からのたくさんのご応募をお待ちしております。

【応募期間】 3月中旬～3月末
(宮崎県PTA新聞「きずな」3月号に案内等の文書を同封)

【表彰式】 6月

宮崎県PTA新聞講習会開催のご案内

宮崎県PTA連合会は、県内各小・中学校等の広報委員を対象に「宮崎県PTA新聞講習会」を開催いたします。宮崎日日新聞社より講師をお招きし、新聞づくりの基本や実技面を中心に講習を行いますので、初めて広報委員になられた方や、改めて学んでみたい広報委員の方など、多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

日時：令和8年8月1日(土) 午後1時半～3時
場所：婦人会館 3F さくら(宮崎市旭1丁目3番10号)

受講料：無料

締め切り：7月24日(金)

申込方法：宮崎県PTA連合会ホームページより実施要項・参加申込をダウンロードしてご確認の上、メールまたはFAXでお申し込み下さい。

FAX (0985) 20-9443 mail mken-pta@io.ocn.ne.jp

第74回日本PTA全国研究大会

奈良大会



建国の地 大和からの発信
コンヴィヴィアリティな「わ」

～挑戦するなら今しかない～

分科会 令和8年8月21日(金)
奈良県内8会場

全体会 令和8年8月22日(土)
天理大学桜之内第一体育館

- 令和8年5月30日(土)
《協議内容》
- 令和7年度事業報告
- 令和7年度収支決算・監査報告
- 令和8年度役員改選
- 令和8年度基本方針・事業計画
- 令和8年度収支予算

宮崎県PTA連合会 定期総会

- 令和8年6月12日(金)
《協議内容》
- 令和7年度事業・決算・監査報告
- 第70回九州ブロックPTA研究大会
- 福岡市大会決算報告
- 令和8年度役員の選出
- 令和8年度努力目標・事業計画・予算

九州ブロックPTA協議会 定期総会

- 令和8年6月19日(金)
《協議内容》
- 令和7年度事業報告
- 令和7年度収支決算
- 令和8年度理事及び監事の選任
- 感謝状贈呈

日本PTA全国協議会 定時総会

地域の誇りを胸に未来を拓く「学びの丘」

～上新田学園(中学部)が牽引する、地域・小中一体の教育活動～

【新富町立上新田中学校】(勢井利彦校長 生徒数59名)

新富町の豊かな自然に囲まれた施設一体型小中一貫教育校学びの丘上新田学園は9年目を迎え、小学部121名、中学部59名の児童生徒が共に過ごす、活気あふれる学び舎です。本校中学部は、9年間にわたる義務教育の「Cステージ(発展期)」として、教育目標「心豊かでたくましく将来を生き抜く児童生徒の育成」の具現化を目指しています。生徒たちは、同じ校舎で過ごす小学部の子どもたちの良きロールモデルとなることを自覚し、日々の活動に取り組んでいます。

1. 小中一貫教育

後輩の道標となる最高学年の誇り

本校の大きな特色は、日常的な異学年交流を通じた「背中を見せる教育」です。その象徴が縦割り清掃です。中学生が清掃班のリーダーとなり、小学生に清掃の手順や道具の扱い方を教えながら共に活動します。この交流は、小学生に安心感と憧れを与えるだけでなく、中学生にとっても責任感や思いやりの心を育み、自己有用感を高める貴重な成長の場となっています。

また、学園最大の行事である10月の体育大会で



体育大会での応援

2. 地域との連携

ふるさとの未来を共に創る輪

は、中学部が生徒会を中心に企画・運営の主軸を担います。応援団や係活動において、中学生が小学生を力強くリードし、一丸となって目標に向かう姿は、一貫校ならではの光景です。こうした行事や日常の交流を通じて、生徒たちは9年間の一貫した成長モデルを体現し、学園全体の一体感を醸成する大きな役割を果たしています。

中学部の学びは、地域社会に支えられています。広い視野と地域理解を深める「グローバル教育」として、中学部1年生が

地域の方々から学ぶしいたけ駒打ち体験や農業体験、全校で行う茶摘み体験学習等、地域の自然や産業を五感で学ぶ機会を大切にしています。まさに「地域の子どもは地域で育てる」という環境が浸透しています。



しいたけ駒打ち体験



保護者経営の牧場での農業体験

アの皆様との絆も強固です。中学部においても地域の方々による「読み聞かせ」が継続されており、豊かな感性を育む大切な時間となっています。登下校時の「地域見守り隊」による支援等も、生徒たちが地域に守られていることを実感し、感謝の心を育む基盤となっています。

さらにPTA活動では、保護者と学校が緊密に連携できる体制を整えています。体育大会や親子ふれあい奉仕活動、持久走大会等の行事における保護者の皆様の協力は、生徒たちの活動を力強く後押ししてくれま

す。こうした地域・家庭の温かな支えの中で、上新田学園中学部は、これからもふるさとを愛し、次代を切り拓く「協和・向上」(校訓)の精神を胸に、一歩ずつ歩んでまいります。

【教頭 谷口明文】



地域探索学習



茶摘体験学習

編集後記

子どもたちが料理をするようになり、そこから「野菜作りをしたい!」との声が。ベランダでプランター菜園をすることにしました。毎朝起きたらプランターを確認している2人。食の大切さを実感してほしいです。また、これからも2人の「やりたい」に可能な限り挑戦できるよう、サポートしていきたいです。

河野

先日、島根県にある足立美術館に行きました。世界的にも評価を受けている日本庭園を見て、私は自宅の庭を自分なりの庭にしていきたいと思う一方、夫はあまりのすばらしさに絶望感がなかったと。二人とも自宅の庭を意識して見た感想の違いに笑えました。

西尾

ピアノ発表会に親子連弾で参加するため初心者夫婦が必死に練習する1年が終わりました。その姿に息子は何を感じたのでしょうか。今度は編集委員に挑戦する私の姿に何を思うのでしょうか。大人になった時の息子に聞いてみるのが楽しみです。

廣川

今春、娘が高校に進学し歌留多部に入部。以降、百人一首の朗詠が我が家の生活音の一つになっています。わずか31音に込められた先人の思いや願い。本編集会議でも書き手が込めた思いや願いを大切に読者の皆様にお届けいたします。

佐藤

令和8年度 編集委員



編集長

西尾 真裕子 (大宮中)
佐藤 健一 (東大宮小)
廣川 真美 (清武小)
河野 早苗 (大宮小)